

『必要なこと』(2) (ルカの福音書 10 章 38～42 節) 2020.8.9.

<はじめに> 主のことばを聞いていたのはマリアだけに見えますが、主と会話したのはマルタでした。主とお会いし、語らうスタイルはそれぞれです。しかし、イエスは「マリアはその良いほうを選びました」とも言われます。イエスが「良いほう」と言われることに、今回はさらに注目しましょう。

I 姉妹の姿

①身近な物語

この物語で、マルタとマリア、どちらにあなたは共感しますか。

もしその場に居たなら、どちら側に立って、応援・弁護しますか。それはどうしてですか。

この物語はとも身近に感じられます。二人の姿と関係性に自分を重ねて見るからです。

②マルタのことば(40)

「心が落ち着か」ない彼女の気持ち・感情には、どんなものがあつたのでしょうか。

この言葉についてどう思いますか。マルタが本当に言いたかったことは何だと思いませんか。

それは相手に真っ直ぐに伝えているのでしょうか。それは相手に伝わっているのでしょうか。

③マリアの様子(39)

マリアは、主をもてなすことやマルタの手伝いに、全く関心が無かつたのでしょうか。

マリアが「主の足もとに座つた」のは、いつ頃で、何かきっかけがあつたのでしょうか。

「主のことばに聞き入っていた」彼女は、その時何か手放したものがあつたのでしょうか。

II 姉妹の心

①マリアの心

選択は、一方を掴むとともに他方を手放すことです。何を選ぶかはその人の価値観です。

マリアは主のことばを聞くことを選びました。それだけの価値をそこに見出し、そのために自分を変えたのです。その価値観を主は良いほうと言われました(マタイ 6:21)。

②マルタの心

旅人をもてなすことを聖書は推奨しています(ロマ 12:13)。マルタは実践しています。そのために彼女は、マルタも主さえも同調させようと動きました。自分の目的・価値観が中心となり、周りを動かそう、変えようとしたのです。しかしイエスはそれに賛同されません(42)。

③二人の立ち位置

マリアが主の足もとに座る姿は、イエスに聞き、主に自分を従わせようとする象徴にも見えます。マルタもみもとに来ますが、マリアのようにではありません。むしろ主でさえも我が意のままに動かそうとしました。主を愛し、喜んでいる者の内に潜む大きな課題です。

III 私たちへの語り掛け

①「マルタ、マルタ」(41)

イエスはなぜ「マルタ、マルタ」と二度名前を呼ばれたのでしょうか。彼女が多くのことに気持ちが分散して、心を乱していると、主は言われます。彼女自身はそのことに気が付いていたのでしょうか。マルタにこの言葉を語る主の声色や表情はどんなものだったでしょう。

②イエスの教え方

イエスはマルタを叱責されたのでしょうか。むしろ彼女の本当の姿を愛をもってはっきりと伝えてくださったのです(エペソ 4:15)。あなたには、そういう人が必要ですか。イエスはマルタにどうすべきかを教えていますか。この後、姉妹はそれぞれどうしたと思いませんか。

③この物語から

人間とはどういうものなのでしょうか。自分自身について何か気付いたことはありますか。

イエスとは、どんな方でしょうか。人にどう向き合ってください方でしょうか。

神様とは、どういう御方だとわかるのでしょうか。

<おわりに> 「必要なことは一つ」と言われたイエスは、心に注目されています。心は表情に、言葉に、行動に表れて来ます。主は、今の私の心をご覧になってなんとおっしゃるでしょう。私は主イエスの前に必要なこと、良いほうを選んでいるのでしょうか。(H.M.)